



最新のニュース

- 東日本大震災について、ハビタットが事業を行う様々な国からお悔やみ・お見舞いのメッセージが届きました。
- 国連ハビタット・(財)福岡県国際交流センター合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」第1回「緊急企画！今、私たちが福岡で出来ること」を4月1日(金)に開催しました。
- 「ハビタットひろば」、第2回はミャンマーをテーマに6月1日(水)に開催します。



2004年スマトラ地震津波災害後、福岡を中心とする日本市民の支援によってスリランカにできた「ふくおか村。」現在、47世帯が暮らしている。
東日本大災害後、住民たちは、集会所に集まり、亡くなった方々や被災された方々のために祈りをささげた。

東日本大震災に寄せる、日本へのメッセージ

2011年3月11日に発生した壊滅的な地震津波災害により多くの人命が失われたことに関し、日本の皆様そして日本政府に心よりお悔やみ・お見舞いを申し上げます。

これまで世界各地で起きた災害等において、日本政府は私どもの事業を通じて様々な支援をしていただいております。日本が防災分野において世界的にも突出しておられることを踏まえて、本災害後の復旧・復興過程で国連ハビタットが支援できることがあれば、すぐに対応できる用意がありますことお伝え申し上げます。



重ねて、日本の皆様が直面されている深い悲しみに心より哀悼の意を表します。
2011年3月14日

(ジョアン・クロス 国連ハビタット事務局長より菅首相への書簡から抜粋)

国連ハビタットのアフガニスタン事務所職員またアフガニスタン人を代表して、今回の災害で犠牲になった方々、被災された皆様に、心よりお悔やみ・お見舞い申し上げます。日本の皆さんは、いつも私たちアフガニスタン人を支援してくださいました。この国の平和構築と開発に向けた多大なる支援をいつもありがたく思っています。今困難に直面されている日本の皆さんのことを、私たちもアフガニスタンから思い、祈りをささげています。

(ハシュマット・サイド、国連ハビタット・アフガニスタン事業オフィサー・職員一同を代表して)

日本を襲った地震津波災害について、全ミャンマー職員からお悔やみ・お見舞い申し上げます。様々な災害復興に携わってきた私には、この規模の自然災害によって、人々がどれ位傷つき、精神的に追い詰められるかがわかります。今まで日本政府は国連ハビタット福岡本部を通じて、災害復興事業を支援してくれました。今度は私たちが恩返しをできればと思っています。

(スリニヴァサ・ポプリ、国連ハビタット・ミャンマー、カントリー・プログラム・マネジャー)
他にも、国連ハビタット福岡本部には、たくさんのお悔やみ・お見舞いメッセージが各国から寄せられました。

3月11日金曜日に東北・関東地方で発生いたしました地震・津波災害により同地域の広い範囲に多大な被害が生じたことは残念でなりません。犠牲になられた方々に衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

国連人間居住計画（ハビタット）といたしましては、関係機関と十分に協議し、2004年のスマトラ地震・津波等に対応してきた教訓を踏まえつつ、今後の救援、復旧、復興に出来る限り協力・支援してまいります。

2011年3月13日

国連ハビタット
福岡本部
本部長 野田順康



緊急企画！今、私たちが福岡で出来ること

～People's Process-地震津波災害からの復興～

2011年4月1日、国連ハビタット福岡本部と（財）福岡県国際交流センターによる共同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」第1回となる「緊急企画！今、私たちが福岡で出来ること」を開催しました。会場には、短い周知期間にも関わらず、熱心な参加者約70名が集まりました。

まず、国連ハビタット福岡本部の野田本部長が、「発災1か月となり、深い悲しみの中からも復旧・復興へ歩み出す被災者の方々と共に、今、何が出来るかを考えたい。国連ハビタットとして、日本政府からの要請に基づいて対応していくことや、スマトラ地震津波災害の教訓を踏まえた復旧・復興へのアドバイスが出来ること、また、5月にもアジア防災センターと共同でワークショップを開き、復旧・復興のあり方を議論したい。」という考えを示しました。

続いて始まったトークセッションでは、九州大学ビジネススクールの星野裕志教授にファシリテーターをお願いし、まず、国連ハビタット上級人間居住専門官であるラリス・ランカティレケと本部長補佐官の星野幸代が、スマトラ地震津波災害をはじめとする自然災害からの復興過程の流れと、復旧・復興過程では、あくまでも被災者が復興の主体者となることが重要であり、被災者自身が復興を担うことで経済力のみならず気力やコミュニティ力の回復を実現する、というハビタットが大切にする「People's Process」について語りました。この手法に基づき、刻々と変動する被災者のニーズを支援活動に反映させ、彼らにとって満足度の高い結果を、より効果的に出すことができるという点には、会場の多くが共感しているようでした。

また、トークセッションでは、被災地から離れた福岡で何が出来るのか？という点に重点を置きました。その中で重要だと度々強調されたことは、星野の阪神淡路大震災時の被災者・支援者両方の経験も踏まえて、「支援をする際にターゲット（エリア）を絞る、支援内容もフォーカスする



第1回「ハビタットひろば」開催の様子
出演者だけでなく、参加者同士、
熱心な意見交換が行われました。

こと」と、また「福岡は離れている分、機動力や細やかな対応は難しいが、むしろ市民や企業などの支援が活かされる機会はこれからの方が多い」そして「これからの長い復興過程を、支援する側も息長く支えていく心構えが必要なこと」でした。

参加者からも多くの意見が出ました。実は、今回の参加者は、福岡に限らず、被災地である仙台や長崎県平戸市小鹿からも集まっていただきました。そして、大きな団体に属していない自分達は、自分たちが普段していることをするしかない、という考えのもと、民泊という形で被災地の子どもたちを受け入れるとともに、地元経済にも寄与できる運動を立ち上げているという話や、農業・漁業など、被災地・東北の方々がプライドを持って携わってきた産業を継続していけるよう、九州で同じ産業を営んでいる地域と連携していければいいのでは、等、本当に活発な意見交換が行われました。また、セッション中での発言はありませんでしたが、当日回収したアンケートには、多くの夫婦二人で生活している世帯でお子さんを預かり、九州のおじいちゃん・おばあちゃんとなって交流するのも可能では、という意見も書かれていました。参加された皆さんの被災地のために何かしたい、という強い思いがあふれた素晴らしい空間でした。

本来、国連機関は当事国の要請を受けて初めて支援活動が可能になるため、当初、国連ハビタットとして、この会をこのような早い段階で開催する意味を自問自答していましたが、このプロセスこそが、「People's Process」。セッション後、当日の参加者による新たなネットワークがいくつか誕生し、その後もフェイスブック等で交流・活動が継続し、具体的な支援に結びついているとも聞きます。この会を通じて、皆さんが何か始めるヒントになればと思い企画した意味はあったと感じています。願わくば、もっと時間が必要でした。継続が必要という意味でも、今後検討していきたいと思えます。

Water for Life
UN-HABITAT
United Nations Human Settlements Programme

いのちの水
プロジェクト

ひと、水、笑顔
はじめよう。

世界では5人に1人が安全な水を飲むことができません。

生活に欠かせない「いのちの水」。
国連ハビタットは、世界中の人たちが安心して水を飲み、安全に暮らせる「まちづくり」を応援しています。
国連人間居住計画（ハビタット）福岡本部（アジア太平洋担当） <http://www.fukuoka.unhabitat.org>

国連人間居住計画（ハビタット）福岡本部（アジア太平洋担当）
〒810-0001 福岡市中央区天神 1-1-1 アクロス福岡 8 階
Tel: 092-724-7121; Fax: 092-724-7124
Homepage: www.fukuoka.unhabitat.org
E-mail: habitat.fukuoka@habitat.org